

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100068		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム可児土田		
所在地	岐阜県可児市土田5651-1		
自己評価作成日	令和 元年12月20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaipkensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193100068-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 元年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年より、地域交流にて土田保育園との交流や、認知症カフェ等への参加に積極的に出掛けられている状況で御座います。ホームでの余暇の時間や、ホーム周りの散歩等、外出支援も増えてきております。人員不足等も解消されてきてますので、ご利用者様の行きたい場所等への支援も出来ております。利用者様本意の支援を考える事へ職員一同心掛けており、ご利用者様への言葉遣いに特に力を入れておりますので、穏やかにホームで生活して頂ける環境作りを心掛けております。毎週、傾聴ボランティア、音楽療法(クラリネット、ハーモニカ、ギター、オカリナ、蓄音機等)や、職員が得意なにて、ホームにて(手芸、工作、コグニサイズ、園芸、体操、化粧療法等)あらゆる分野からのアプローチを掛けて、ホームでの余暇の時間を楽しく頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新ホーム長就任と共に新組織作りとして来期までに各ユニットにリーダーを配置出来るよう取り組んでおり、前ホーム長が残してくれた基盤の質を上げていくことに前向きに取り組まれている。職員が行える市役所手続きに本人を同行させ、共に説明を聞くことやその後本人が馴染んだ商店街により買い物をしてくるなど、本人が主役になるケアに取り組まれている。運営推進会議を家族参加で行えるよう移行し、さらに会議の発信から保育園との交流も始まっている。各種のボランティアの訪問も多くあり、職員とのコミュニケーションにも力を入れた取り組みとなっている。地域との繋がりを大切にし運営推進会議を定期的な交流機会として活用されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を理解して、地域密着サービスとは、地域交流を含め、全ての事を職員とも共有して行います。	事業所のミッション、ビジョンとして認知症のケアの質への取り組みがある。出勤職員一人ひとりの「私が今日やること」として目標を毎日可視化し設定、その振り返りも行い落とし込んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域交流は、近所の土田保育園との毎年交流、2か月に一度に開催される認知症カフェへの参加ホーム周りの散歩や、花木センターまでの外出支援を行っております。	保育園との定期的な交流があり、散歩時も保育園まで歩いて行けることを目標に実施されている。花木センターにも出向き苗購入やカフェ参加で地域の方との交流もある。中学校の職場体験の受入等の様々な交流機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域包括支援センター、自治会長、民生委員への情報発信を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域交流にて土田保育園を紹介して頂き、昨年からは土田保育園との交流を行っております。	運営推進会議での提案により、保育園との交流機会を得た事例もある。また、課題になっていた家族参加にも繋がり、意見交換が頻回にみられるようになってきている。	運営推進会議への関心を高めるためには、内容を知ってもらうことも必要であろう。参加できなかった家族への報告・伝達について今後の課題として提案したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市への訪問を行い、連絡を取り合っております。	包括から入所状況確認や地域の困難事例の相談も多くある。また、福祉フェアや連絡協議会にも参加し、認定更新などの手続き時には市への訪問に入所者と共に出掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯のための鍵の施錠以外はしておりません。職員の理解を深める為、研修だけではなく、普段の会話の中に身体拘束に関する事を話しております。	不適切ケアチェックシートで毎月確認し、年間で計画されている勉強会で事後防止や人権についても関連付けて学んでいる。訪問看護職員に認知症の方へのケア方法や声掛けの勉強会を行ってもらい、スピーチロックについて学びを深めた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から、指導監視し、周知しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とされているご利用者はいませんが、研修にて理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により十分な時間を取っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを毎年行い、その結果を報告、当グループホームへの張り出しを行っております。	家族アンケート結果で清掃についてのご意見があり、課題解決に取り組んでいる。面会が多くあることもあり、都度、要望や思いを聞くことができ、運営推進会議にも参加頂けるようになり意見交換が行えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議、ホーム会議にて、話し合いの場を設けています。	月二回の面談で仕事への意識改革が行えたことや思いを話してもらう機会になっている。ユニットリーダーを来期までに配置予定もあり、組織作りに取り組んでいる。新人教育方法の見直しも行えた。	職員が意見や要望・提案を行える機会を設けることは指導育成のためにも欠かせない。適切な運営、職員の育成に向け積極的な取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を実施し、個々の意見など相談を出来る時間を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会議、外部の会議、資格取得などの発信をし、参加を促しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へ出向き、情報共有を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者個々に対し、思いや考えを聞き、それを日々の生活に反映出来る様にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へのお手紙の発信や、来訪時の意見交流を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前や、入居後のアセスメント時に随時話をする時間を設け、ニーズの確認に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、家事、配膳、園芸、出来る事を行って頂けるよう配慮しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて情報提供をし、希望を伺い、ケアプランに取り入れております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の来訪や、知り合いの方の来訪・連絡などでご利用者様が安心して生活出来る様にお声掛けしております。	市役所訪問時に知り合いに会うことや近所の方の面会が多くある。事業所でお茶できる場所を提供し集いの場になっている。将棋や編み物、大正琴など趣味を継続され、互いに教え合う場面もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が出来る限り介入し、会話が出来るホーム環境にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の連絡など、必要時に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話にて、希望を聞き出し、ケアプラン作成の取り入れております。	外出の要望など会話から拾い上げ、行事計画に反映させている。コミュニケーションの中で聞けた思いを記録に残すとともにすぐに計画にし、レスポンスを早くすることで入所者の喜びに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や望むこと、楽しみの方を日常生活での様子や会話から取り入れております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、観察し、介護記録への記入をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて、ご利用者様のカンファレンスを行っております。またご家族様からの情報提供を来訪時や電話連絡などで聞き出しております。	ユニット会議で日々の聞き取りや記録情報を基にモニタリングを行い、プランを見直している。家族の要望も面会時や電話で聞き反映している。本人の力を継続する日々の生活動作プランが多く、記録に努めている。	本人の背景や強みを活かしたケアの実践が行えている部分をプラン化し、その評価が数値など可視化することも必要であろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護チェック表や介護記録を作成しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の疾患に対して、対応策を常時考え、職員への発信、ご利用者様の対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所のお店への外出、買い物など時間がある限り外出支援を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診にて、身体状況の把握が来ております。専門外の場合においては、ご利用者様の希望にて受診出来るようにしております。	かかりつけ医に家族協力で受診される方もある。協力医は月2回の往診の他、体調変化、急変時も訪看と共に対応してもらえ、重度化の場合に協力医の法人で対応も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週に訪問看護師にて、連絡相談を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ケアマ始めとし、体調確認、状況を確認するようにお見舞いに伺っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針の説明を行います。また、常時医療処置が必要な方に対し、現状と今後に向けての事をご家族と相談し、今何が必要かを随時相談しております。	入居時に重度化した場合、事業所体制や協力医の助言もあり、事業所で看取りは基本的に行っていないことを説明している。重度化した場合、協力医法人の特養に移行なども可能になっている。体調変化時には都度、家族と相談し、不安軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の参加を実施しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練にて研修を行っております。地域への発信にて参加の協力を仰いでおります。	消防の救急救命講習を受けるほか、毎日の朝礼時に急変時対応の流れを繰り返し確認している。来訪者の急変に適切な連携で命を救った事例もある。自治体とは災害時の対応を協議している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修により、職員には意識を持って業務を行なって頂いております。	チェックシートや勉強会で不適切ケアの確認を行い、課題がある場合には職員間で話し合いを行っている。職員本位にならないよう、待つことや平等な対応を心掛けること・馴れ合いにならないことに注意を払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いややりたいことなど、普段の生活の中から見つけられるよう、発した言葉や行動など、介護記録へ反映。職員に周知してもらえるようしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般において、その人らしい生活が出来るよう、ご利用者様のペースに合わせた援助を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	無理に職員が服装などを決めないように配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食器洗い、洗濯たたみ、干し、配膳、掃除家事全般をご利用者様と一緒にしております。	採れた野菜で副食1品を入所者が作成する他、配膳、食器洗いなど、個々の役割が自然と分担され職員を自ら手伝われている。畑の栽培も職員に手入れ方法を指示し入所者が主役になって活動されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を介護チェック表へ記入、把握しております。ヤクルト等、ご利用者様の好みに合わせて提供も行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを声掛けにて実施して頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導にて、排泄の失敗を極力減らそうと配慮させて頂いております。	周りに知られないように確認や声掛けを行い羞恥心への配慮や、夜間はセンサーを使用し安全に動作が行えるよう見守りを行い、自分で行えることは継続してもら様、自立支援への対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、コーヒー牛乳摂取、腸体操を行い排便コントロールさせて頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の指定をしておらず、ご本人様の気分にも合わせて入浴させて頂いております。	週に2~3回の午前入浴を行い、入浴剤を使用して、順番や曜日を固定せず、本人の意向を伺い対応している。断られる方には声掛けを工夫し対応で入浴してもらえている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や、その日の体調にて、適宜休んで頂くなど配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をいつも確認できる場所にて保管し、服薬マニュアル、薬一覧に沿って服薬を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書き物や、外出支援、お買いもの、散歩、希望に沿った対応をしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周りの散歩、花木センター、近所のスーパーへの外出支援声掛けし、実施しております。	市役所にご本人が同行し手続きをし、その後地元のお店街で買い物を行うことや、家族との受診時に外食をされるなど、日常の外出の他、事業所レクでの外出は入所者の希望を多く叶えられるよう、日頃からの聞き取りを大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣い等は、ホームで立替金にて必要に応じて使用して頂ける様にしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時希望があれば、電話連絡や手紙のやり取りを行えるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾、花壇にお花を植えたり、玄関周りにお花を飾ったりして、四季が感じられる様にしております。	玄関などの花は担当職員とお花が好きな入所者で飾りつけを行い、掲示物などの飾りも職員の提案で入所者と共に作成している。居間や廊下の掃除機かけも入所者が行うなど、役割を担い行われている。居間で集まれる方が多く、心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随時、安全にてスペース移動が出来るようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄の自宅での生活により近い状態で生活出来るように、馴染みのものや家具を持参して頂いております。	仏壇や加湿器のほか、下着を自身で洗濯し居室に干される方は物干しを設置されるなど、個々のこだわりを大切に支援されている。アルバムや写真なども多く持ち込まれ、清掃は各利用者も職員と共に行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何の部屋か分かるように貼り紙にて知らせさせて頂いております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100068		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム可児土田		
所在地	岐阜県可児市土田5651-1		
自己評価作成日	令和 元年12月20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaipkensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193100068-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 元年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年より、地域交流にて土田保育園との交流や、認知症カフェ等への参加に積極的に出掛けられている状況で御座います。ホームでの余暇の時間や、ホーム周りの散歩等、外出支援も増えてきております。人員不足等も解消されてきてますので、ご利用者様の行きたい場所等への支援も出来ております。利用者様本意の支援を考える事へ職員一同心掛けており、ご利用者様への言葉遣いに特に力を入れておりますので、穏やかにホームで生活して頂ける環境作りを心掛けております。毎週、傾聴ボランティア、音楽療法(クラリネット、ハーモニカ、ギター、オカリナ、蓄音機等)や、職員が得意なにて、ホームにて(手芸、工作、コグニサイズ、園芸、体操、化粧療法等)あらゆる分野からのアプローチを掛けて、ホームでの余暇の時間を楽しくして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を理解して、地域密着サービスとは、地域交流を含め、全ての事を職員とも共有して行います。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流は、近所の土田保育園との毎年交流、2か月に一度に開催される認知症カフェへの参加ホーム周りの散歩や、花木センターまでの外出支援を行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域包括支援センター、自治会長、民生委員への情報発信を行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域交流にて土田保育園を紹介して頂き、昨年からは土田保育園との交流を行っております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市への訪問を行い、連絡を取り、合っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯のための鍵の施錠以外はしておりません。職員の理解を深める為、研修だけではなく、普段の会話の中に身体拘束に関する事を話しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から、指導監視し、周知しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とされているご利用者はいませんが、研修にて理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により十分な時間を取っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを毎年行い、その結果を報告、当グループホームへの張り出しを行っております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議、ホーム会議にて、話し合いの場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を実施し、個々の意見など相談を出来る時間を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会議、外部の会議、資格取得などの発信をし、参加を促しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へ出向き、情報共有を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者個々に対し、思いや考えを聞き、それを日々の生活に反映出来る様にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へのお手紙の発信や、来訪時の意見交流を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前や、入居後のアセスメント時に随時話をする時間を設け、ニーズの確認に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、家事、配膳、園芸、出来る事を行って頂けるよう配慮しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて情報提供をし、希望を伺い、ケアプランに取り入れております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の来訪や、知り合いの方の来訪・連絡などご利用者様が安心して生活出来る様にお声掛けしております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が出来る限り介入し、会話が出来るホーム環境にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の連絡など、必要時に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話にて、希望を聞き出し、ケアプラン作成の取り入れております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や望むこと、楽しみの方を日常生活での様子や会話から取り入れております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、観察し、介護記録への記入をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議にて、ご利用者様のカンファレンスを行っております。またご家族様からの情報提供を来訪時や電話連絡などで聞き出しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護チェック表や介護記録を作成しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の疾患に対して、対応策を常時考え、職員への発信、ご利用者様の対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所のお店への外出、買い物など時間がある限り外出支援を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診にて、身体状況の把握ができております。専門外の場合においては、ご利用者様の希望にて受診出来るようにしております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週に訪問看護師にて、連絡相談を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ケアマ始めとし、体調確認、状況を確認するようにお見舞いに伺っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針の説明を行います。また、常時医療処置が必要な方に対し、現状と今後に向けての事をご家族と相談し、今何が必要かを随時相談しております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の参加を実施しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練にて研修を行っております。地域への発信にて参加の協力を仰いでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修により、職員には意識を持って業務を行なって頂いております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いややりたいことなど、普段の生活の中から見つけられるよう、発した言葉や行動など、介護記録へ反映。職員に周知してもらえるようしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般において、その人らしい生活が出来るよう、ご利用者様のペースに合わせた援助を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	無理に職員が服装などを決めないように配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食器洗い、洗濯たたみ、干し、配膳、掃除家事全般をご利用者様と一緒にしております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を介護チェック表へ記入、把握しております。ヤクルト等、ご利用者様の好みに合わせて提供も行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを声掛けにて実施して頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導にて、排泄の失敗を極力減らそうと配慮させて頂いております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、コーヒー牛乳摂取、腸体操を行い排便コントロールさせて頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の指定をしておらず、ご本人様の気分にも合わせて入浴させて頂いております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や、その日の体調にて、適宜休んで頂く頂くなど配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をいつも確認できる場所にて保管し、服薬マニュアル、薬一覧に沿って服薬を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書き物や、外出支援、お買いもの、散歩、希望に沿った対応をしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周りの散歩、花木センター、近所のスーパーへの外出支援声掛けし、実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣い等は、ホームで立替金にて必要に応じて使用して頂ける様にしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時希望があれば、電話連絡や手紙のやり取りを行えるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾、花壇にお花を植えたり、玄関周りにお花を飾ったりして、四季が感じられる様にしております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随時、安全にてスペース移動が出来るようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄の自宅での生活により近い状態で生活出来るように、馴染みのものや家具を持参して頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何の部屋か分かるように貼り紙にて知らせさせて頂いております。		